

地震災害予測研究会（第1回）議事要旨

日 時：平成21年6月8日(月) 14:00～16:00

場 所：損保料率機構 3階C会議室

出席者：（順不同、敬称略）

（委員）北川良和 翠川三郎

和泉正哲 額瀨一起 腰原幹雄 境有紀 林康裕 緑川光正

（機構）関根(常務理事) 大滝(リスク業務室長) 永島(火災・地震保険部長)

丸楠(火災・地震保険部地震グループリーダー)

（事務局）損保料率機構リスク業務室

議 事：

1. 平成21・22年度地震災害予測研究会のテーマと課題について

A. 事務局より、下記実施項目の提案があった。

- 1) 地震保険の料率算出に用いている地震リスク評価手法のチェック
- 2) これまでの研究で残された課題の解決に向けた方法論の検討
- 3) 上記を踏まえた機構の中長期的な研究計画の検討、策定
- 4) 機構の新規研究事業の委託先や研究方法等の評価

B. 委員から、下記の意見があった。

- 1) A. 1) 「地震リスク評価手法のチェック」の範囲や内容が不明確
- 2) A. 4) 「新規研究事業の委託先や研究方法等の評価」について、研究会の場にはなじまず、また、本研究会の限られた時間内で実施することは困難

事務局は委員意見を踏まえ、次回研究会において再度実施項目を提案する。

2. 地震保険制度の概要について

A. 事務局より、地震保険制度の概要についての説明があった。

3. 平成 21・22 年度 地震災害予測研究会の目的と背景について

A. 事務局より、下記項目の説明があった。

- 1) 平成 21・22 年度地震災害予測研究会の目的と背景
- 2) 地震保険の料率算出における地震リスク評価手法
- 3) これまでの研究で残された課題

B. 委員から、A. 2) について下記の意見があった。

- 1) 地震リスク評価手法を議論するために、評価した地震リスクから地震保険料率を算定する際の制約条件や考え方の説明が不可欠
- 2) 全ての地震を一律の手法で評価している点について、各地震の地震保険料率への影響度合いによって、地震や評価手法の軽重をつける検討の必要性
- 3) 平均値のみで地震リスクを評価している点について、不確実性評価を取り込むことの検討の必要性

事務局は、これらの意見を踏まえて次回以降の研究会を運営する。

4. 今後の開催日程について

次回は 9 月 11 日、次々回は 11 月 20 日に開催する。

以 上